



本日のプログラム セ釜山 RC 来鹿例会

11月 ロータリー財団月間

前回例会出席率 29.41%

会長の時間

会長 下村 哲也

皆さんこんばんは。鹿児島中央ロータリークラブ会長の下村です。宜しくお願いします。



ご承知の通り、ロータリークラブでは、クラブだけでなく、ロータリアン一人ひとりが、ロータリーの活動に参加するよう強調するため、国際ロータリー(RI) 理事会が指定した月間があり、これを「ロータリー特別月間」と言います。今月10月は、「地域社会の経済発展月間」となっております。

ロータリー Web サイトによれば、雇用されているにもかかわらず1日にわずか1ドル90セント(約220円)で暮らしている人の数は、世界で約8億人いるとのことでした。

ちなみに鹿児島県の最低賃金は、今月5日に改定されまして、1時間あたり953円で、仮に1日8時間労働であった場合7,624円です。1日220円という賃金は、日本の最低賃金の3%にも満たない数字です。

また、経済学者トマ・ピケティによれば、「 $r > g$ 」、つまり「資産(資本)によって得られる富、つまり資産運用により得られる富は、労働によって得られる富よりも成長が早い」とのことですので、彼ら8億人を放置していても状況の改善はなかなか見込めません。

また、貧困と子どもの死亡率は関連しており、ユニセフによれば、最貧困世帯に生まれた子どもは、最富裕世帯の子どものと比べて5歳未満で死亡する割合が2倍高く、脆弱な環境や紛争の影響を受ける環境で暮らす子どもは、他の地域の子どもと比べて5歳の誕生日を迎える前に死亡する割合

が3倍近く高くなっています。

そこで、ロータリーは、貧困問題に持続可能な解決策をもたらすために様々な活動をしています。例えば、

持続可能な農村開発を目的とする、ネパール先住民居住区における飲料水設備の設置

次世代科学者育成を目的とする、恵まれない地域の若者を指導するプロジェクト

自然を利用した地域社会の育成を目的とする、コスタリカにおけるビジネス研修、養魚と水栽培を組み合わせたシステムの構築

女性の支援=収入向上と自立を目的とする、ネパールにおける読み書き、資産管理の研修

等々、グローバル補助金等を利用して行われています。

また、同時に、子どもの死亡率を改善するためにもロータリーは活動しております。

まさに明日、東クラブさんが主催されますポリオ根絶チャリティウォーキングランニング大会が開催されますので、多くの皆さんの参加をお待ちしております。

温帯性花木類について

鹿児島大学アカデミー RC 会長 橋本 文雄



今夜は3クラブ合同の夜間例会ということで、お集まりいただき誠にありがとうございます。担当がKUARCということで、中央RC、東RCの皆様を本会場ベジマルシェにて歓迎いたします。今宵は3クラブの皆様、懇親を深められて、楽しい時間をお過ごしになられればと思います。お時間の

次回例会 令和6年11月11日(月)

クラブ協議会
「地区大会報告」

第2149回例会記録 10月18日(金)

出席率	会員数	出席数	出席報告
第2149回例会	52名	15名	29.41%
前々回(9月30日)の補正	52名	32名	62.75%

許す限り、ゆっくりとご歓談いただければと思います。それでは早速ですが、KUARC 会長の私より、まず会長の時間を頂戴いたします。

今日は、温帯性花木類について、お話しをさせていただきます。この時期、鹿児島では街路樹がまだ青々と茂っていて、ご家庭の庭先の樹木類、例えば、ツツジ、ツバキ、紫陽花など、枝が伸びすぎていて剪定しないとイケないという方が多くいらっしゃると思います。ところが今の時期に剪定すると来春花がさかない？という事態が発生するので気を付けましょう。本日は、温帯性の花木類の花芽がいつできて、うっかり剪定すると来年の花芽を切ってしまうよ、という剪定のタイミングを間違わないように、とのお話です。

ツツジ属の中で園芸的に高く評価され、多彩な品種分化を遂げてきたのは常緑性ツツジ、落葉性ツツジ、無鱗片シャクナゲ、有鱗片シャクナゲの4亜属群です。

クルメ（久留米）ツツジは、常緑性、非耐暑性、一季咲き性のツツジで、ヤマツツジ、キリシマツツジとサタツツジの種間交雑による品種改良によって成立したとの来歴があります。小輪多花性で花色は変異に富み、花型も散りにくい二重咲き（ホーズ・イン・ホーズ）が特徴で、開花期は早ければ3月終わりごろから、4月中旬まで続き、小輪多花性と一斉開花性の特徴をもっています。

クルメツツジの花芽形成を花芽ステージ毎に見ると、7月初旬～中旬に花芽分化が始まり、8月中旬から下旬にかけて、小花原基から雌蕊形成まで急激に分化し、10月の終わりごろまでに花芽が完成します。ツツジ類は一般的に、この花芽ステージを経て翌年春の開花に至るため、花芽形成が始まる7月以降に剪定すると、翌年には花付きが悪くなることとなりますので注意しましょう。

つぎに、ツバキは、観賞用花木として世界的に親しまれている常緑性温帯花木です。種子は椿油の原料として用いられています。中でも、紅花ツバキと呼ばれるものは、ツバキ属のうち55種のCamellia 節ツバキのことを指し、花卉が紅色やピンク色をしている系統で、主要な色素としてアントシアニンを有するツバキです。

ツバキは、照葉樹林帯の住人と呼ばれており、アジア圏では中部日本から南は九州・南西諸島群



(鹿児島大学農学部・観賞園芸学研究室・附属農場ハウス内撮影「耐暑性のクルメツツジ」)



(鹿児島大学農学部・観賞園芸学研究室・附属農場撮影「サザン」とヤブツバキとの雑種)

に分布し、韓国、中国の北は山東省から南シナ海に面する地域、そして、南西部の雲南省の山奥まで広範囲に分布しています。特に、雲南省・怒江川と長江に挟まれた標高2千から3千メートルの山奥が、我々の研究でも起源地であることがわかりました。

ツバキの花芽形成を花芽ステージ毎に見ると、6月中旬～7月中旬ごろにかけて花芽分化が始まり、9月初旬には花芽が完成します。一般的に、この花芽ステージを経て早春の開花に至るため、花芽形成が始まる6月以降に剪定すると、花付きが悪くなることとなりますので注意しましょう。

このように、温帯性の花木類の花芽形成時期を理解していれば、剪定の時期を間違えることはありません。これらの他、サクラは6月から7月にかけて、ウメやモモは8月上旬、コデマリ、ユキヤナギは10月上旬、アジサイも10月上旬から花芽分化が始まります。特に、日本人がこよなく愛する「サクラ」もこの夏の季節に花芽が分化します。「サクラ」のお話は、来年の2月の例会でお話ししますので、是非、皆さん、例会へメーカーアップも兼ねてご参加ください。

最後に耳よりのお話として、例年年末ごろに、特に平戸ツツジが咲いた鉢物が販売されていることがあります。「すごい！冬にツツジが咲くんだ！」と驚いて買って帰りますが、花が終わって翌年の春に花が咲かない、また、その年の年末にも花が咲きません。「どうして冬に咲いていたツツジが、翌年春と冬に咲かないのだろう??」と疑問になりますね。実は、年末に咲いていた理由は、花芽が完成して冬至芽となった個体を鉢上げし、または、鉢そのものを、ある一定期間低温で保管・冷蔵処理し、温かい環境に戻すことで冬場に咲かせる、いわゆる「人為的自発休眠打破による開花促進」の技術を使って開花させているもので、ツツジ自

体が冬に咲く品種ではありません。なので、次に咲くのは自然環境下で花芽分化が起き、冬至芽を形成し、冬場の低温に遭遇した後の、翌々年の温暖な気候になる春ということになりますので、購入される場合は、園芸屋さんによく説明を受けて購入されてください。

鹿児島東 RC 会長 原田 祐子



鹿児島大学アカデミー、鹿児島中央ロータリーの皆様との合同例会開催とても楽しみにしていました。ホストの鹿大アカデミーの皆様、準備などありがとうございました。

私たちのクラブは会員24名（うち5名女性）の平均年齢60歳のクラブです。鹿児島中央クラブが親クラブで38年目のクラブになります。社会奉仕活動など積極的に取り組んでいます。

活動としましては、鹿児島特別支援学校での節分行事での鬼役、福の神役、鹿児島東高等学校での模擬面接官、谷山にある愛の聖母園への物資の支援、市立病院、リボン館への絵本の寄贈など様々な活動をしています。

そしてポリオ根絶への取り組みに関しては、チャリティコンサートや映画館を貸し切った「プレスしあわせの呼吸」鑑賞会、そしていよいよ明日になりましたがポリオ根絶チャリティーウォーキング&ランニング大会です。今回で3回目になります。

宣伝させていただくと19日10時から12時、場所はマリポート鹿児島です。参加費は1000円になります。

参加者の皆さんにグラウンド1キロを歩いたり走ったりしていただいて全員に何周回ったかを申告していただいて、全体の合計数に1000円をかけてクラブからポリオに寄付します。

去年は200周を超えて寄付額も20万を超えました。

明日はお天気が心配ですがまだ参加も大丈夫です。お時間ある方は健康増進の為にもぜひご参加をお待ちしています。

今夜は皆さんと交流を深めながら楽しい時間を過ごしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

